

#### 4.まとめ

##### ①SA5002(掘立柱塀跡)

SA5002(掘立柱塀跡)は、第3次調査で確認した塀跡の延長線上に位置することから、一連のものである可能性が高いことがわかりました。第3次調査で確認した塀跡と一連の塀であった場合、掘立柱塀の総延長は南北111m以上になります。

また、今回確認したSI5007(竪穴建物跡)を埋め戻してからSA5002をつくっていることが明らかになりました。SI5007(竪穴建物跡)を埋めた土の中に下野薬師寺の瓦の破片含まれることが明らかになりました。

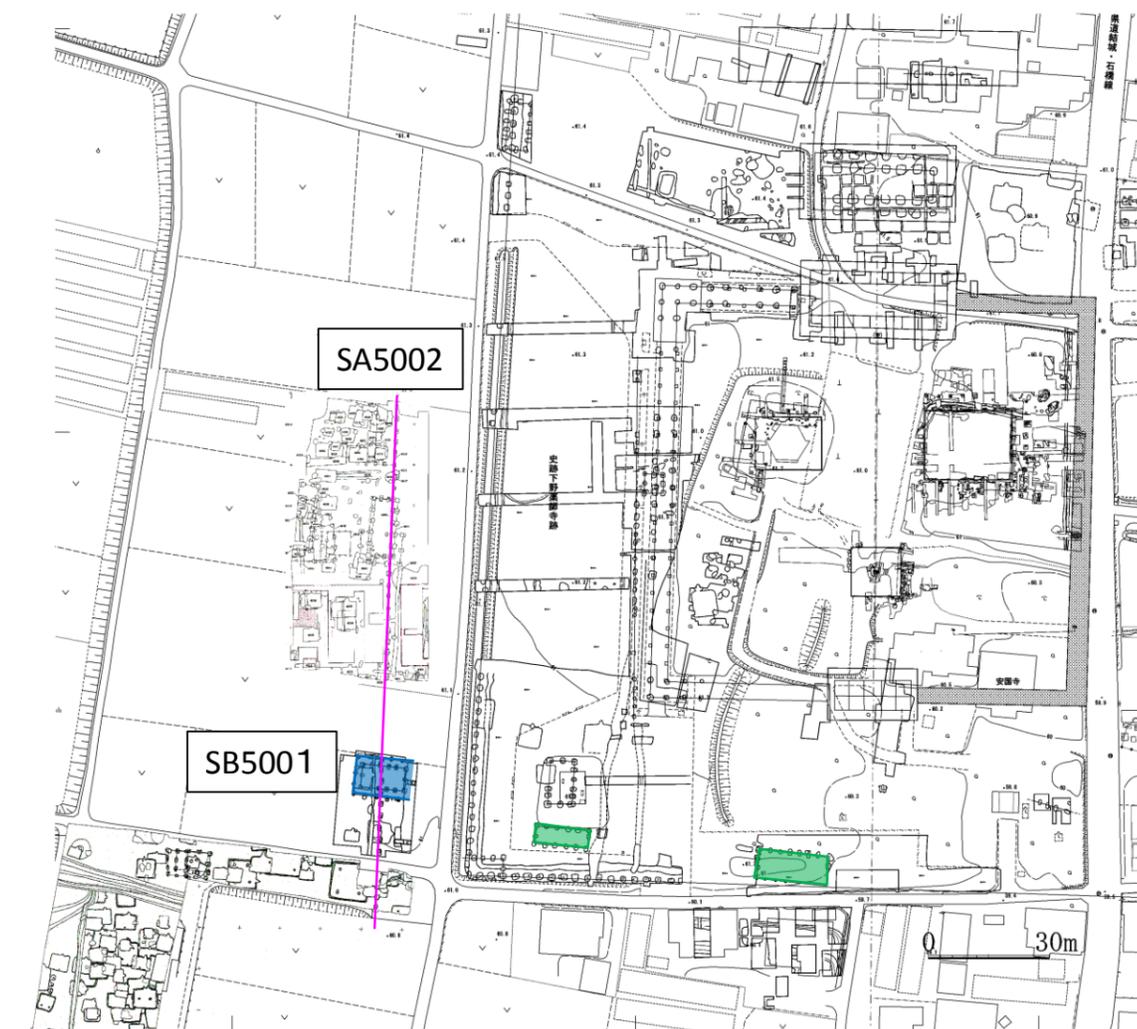
このことから、SA5002(掘立柱塀跡)は、下野薬師寺に可憐する施設の塀跡の可能性が高いことがわかりました。

##### ②SB5001(掘立柱建物)

SB5001(掘立柱建物)は、四面に廂を持つ建物である可能性が高いことがわかりました。

SB5001(掘立柱建物)の柱穴の一部をSA5002(掘立柱塀跡)が破壊していることから、SA5002(掘立柱塀跡)よりも古い時期の建物であることがわかりました。

四面に廂を持つ建物は格式が高いたてものであること、寺院創建以前の複数の建物と建築する方位が酷似していることなどから、下野薬師寺よりも古い時期の建物であった場合、寺の造営に深くかかわった下毛野一族の邸宅や初期の役所であった可能性が考えられます。



下野薬師寺跡と落内遺跡

落内遺跡第4次発掘調査現地説明会資料(2022.12.11)  
編集・発行 下野市教育委員会文化財課  
〒329-0492 栃木県下野市笹原26  
TEL 0285-32-6105  
E-mail bunkazai@city.shimotsuke.lg.jp



2022.12.11 現地説明会資料

# おちうちいせき 落内遺跡第4次発掘調査



下野市では教育や観光など文化財の総合的な活用による地域づくりを目指し、「東の飛鳥プロジェクト」を推進しています。

## 史跡下野薬師寺跡関連遺跡の範囲内容確認調査

### 1.下野薬師寺について

下野薬師寺は7世紀末に地方豪族下毛野(しもつけ)氏の氏寺として創建され、奈良時代前半には東国唯一の国立寺院として、造下野薬師寺司(ぞうしもつけやくしじ)による造営が行われました。

奈良時代中頃には、奈良の東大寺、大宰府の筑紫観世音寺(つくしかんぜおんじ)と共に僧の資格を得るための場である戒壇(かいだん)が設置され、東国仏教の中心寺院として隆盛を極めました。

平安時代の歴史書である『続日本後紀(しよくにほんこうき)』は、下野薬師寺の姿を「あたかも七大寺の如し」と伝えています。文献からはその実態を知ることができませんでした。

昭和41年から継続的に実施してきた41次に及ぶ発掘調査によって、寺を囲む塀跡の規模が東西250m以上・南北350m、回廊の規模が1辺105mの東国最大級の伽藍を誇る寺院であったことが明らかになっています。

### 2.落内遺跡について

落内遺跡は、史跡下野薬師寺跡の西側一帯に広がる下野薬師寺の関連遺跡です。

平成9年度に下野薬師寺歴史館建設に伴って実施した第1次調査によって、下野薬師寺の創建に深く関係する遺跡であることが明らかになりました。

その後、平成26・27年度に実施した落内遺跡第3次調査では、建物と塀を一体的に構築している塀跡の一部や特殊な構造の建物などを確認しました。

このため、令和4年10月から、第3次調査で見つかった塀跡の範囲確認を目的として、第4次発掘調査を実施しました。



落内遺跡位置図

### 3. 確認した遺構

#### SA5002(掘立柱塀跡)

南北24mにわたって、塀の柱の跡を確認。調査区で確認した柱は9カ所で、柱の寸法は2.7m前後であることがわかりました。

落内遺跡第3次調査で確認した塀跡の延長にあたる可能性が高いことがわかりました。

#### SB5001(掘立柱建物跡)

東西5間(10.5m)、南北2間(5.4m)の東西棟の掘立柱建物跡で、建物の外側4面に東西5間(14m)、南北3間(9.2m)の廂(ひさし)を持つ構造の建物であることがわかりました。柱穴の一部がSB5002(掘立柱塀跡)に破壊されていることから、SB5002(掘立柱塀跡)よりも古い時期のものであることがわかりました。

#### SD5004(溝跡)

南北方向に延びる溝跡。調査区内で確認した幅は東西約3m。トレンチ調査によって深さが1.35mであることを確認しました。埋め戻した溝の上面を突き固めて整地しています。出土遺物から中世の溝跡と考えられます。

#### SD5010(溝跡)

南北方向に延びるに幅約0.7m。重複するSB5001・5009・SI5007よりも新しく、SI5003よりも古いことが明らかになっています。

#### SI5003(竪穴建物跡)

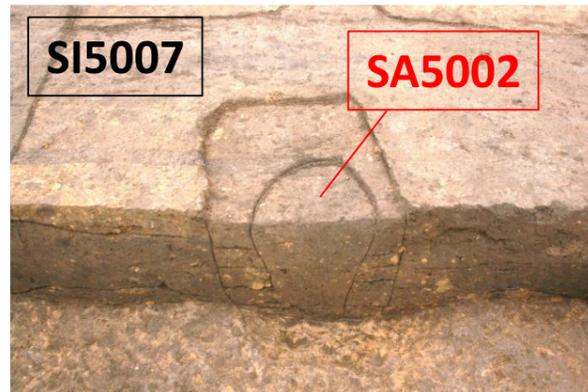
東西約4m、南北約5mの竪穴建物跡で、東の壁にカマドを持ちます。SB5001の柱穴を破壊していることからSB5001よりも新しい時期のものであることが明らかになりました。

#### SI5006(竪穴建物跡)

東西約3.7m、南北約2.6mの竪穴建物跡で、北の壁にカマドを持ちます。

#### SI5007(竪穴建物跡)

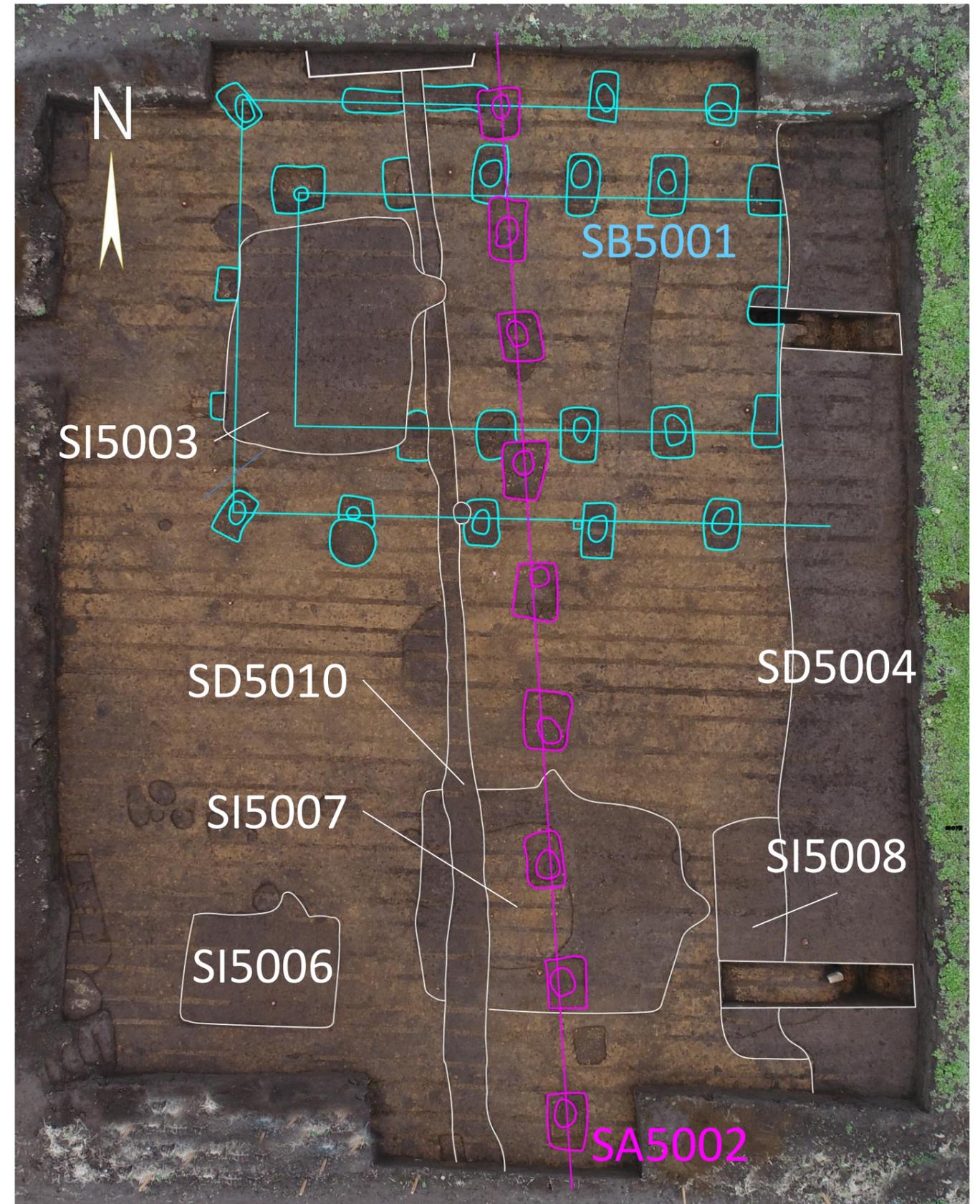
1辺約6mの竪穴建物跡である。北の壁から東の壁にカマドを作り変えていることがわかっています。SI5007を埋め戻してから SA5002(掘立柱塀跡)をつくっていることがわかりました。埋め戻した土の中からは、下野薬師寺の瓦の破片が出土しています。



SI5007とSI5002の土層(南から)

#### SI5008(竪穴建物跡)

南北が約5m、東西が3m以上の竪穴建物跡。出土している遺物から7世紀末から8世紀初頭に埋戻されていることがわかりました。



落内遺跡第4次調査遺構配置図